

講義名	経営組織論 A			授業形態	
担当教員	瀧本 隆弘	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
			ナンバリング・コード	MAN260	

主題と概要

組織とは、人間同士が協力して成果を出す仕組みであり、人間の能力の限界を克服するために形成されるものである。それをもって人間社会の進歩が実現されてきた。「組織の時代」といわれる現代において、よりよく生きていくためには、組織を理解することが不可欠である。経営組織論は、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業という組織を研究対象としている。本講義では、組織論の基本的知識、代表的な組織理論の紹介を中心に講義を行う。また、応用論として、より専門的な企業の組織管理が学ぶことができている経営組織論Bの履修準備ができる科目である。

到達目標

経営組織論 A では、企業の組織管理について基礎的な知識と理論が修得でき、組織の視点で経営管理を理解することができるようになる。

提出課題

1. 講義の申請に、中間レポートの提出を求める可能性がある。ただし、下記の課題提出の回数が増えた場合(5回以上)は、実施しない。
2. 簡単な課題提出を求める。(4回・月1回程度) 講義内容に沿ったテーマで、講義の復習となるようなテーマが選択される。
3. 定期試験はマークシート方式のテストで実施予定。(レポートに変更の場合もある)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

課題の解説については、クラス全体に向けて、キャンパスクロスを通じ実施する。
履修者が30名以下の場合は、個別に講評を行い、流科ポータルへのメールへ返信する。

評価の基準

以下の総合評価で成績とする。
定期テスト、試験実施(60%)
後期・中期の中間レポート(20%)
回数(4回以上)の課題提出(20%)
ただし、課題提出の回数が多くなった場合(5回以上)は、中間レポートは実施せず
課題提出の比率を40%にする
出欠調査は行わないので、出席点はない。
講義形式の変更があった場合でも成績評価方法は変更しない

履修にあたっての注意・助言他

- 経営組織論Aは時間割にいくつか配置されているが、それぞれ別の科目であり、必ずどれか1つだけ履修し、その時限に出席すること。
1. この講義は、講義中に提示されるパワーポイントのスライドを中心に、テキストは特に指定しない。
講義内容のスライドはすべてキャンパスクロスからダウンロードできるようにしてある。
スライドのアップやダウンロードのタイミングは講義中に指示する。
プリント資料なども、必要なものはすべてダウンロードするようにしてある。
こちらからプリント配布は一切行わない。
講義開始までにダウンロードの方法を確認すること。
 2. 出席調査は行わず、上記の講義中に提出する課題で出席点に代える。
 3. 経営学関連の講義をある程度履修しているほうが望ましい。
 4. 中間試験は行わず、小レポートを実施する。
ただし、課題の回数を多くして(5回以上)、中間レポートを中止する場合もある。
レポート提出はすべてキャンパスクロスを通じて行うこと。

教科書

・テキストは指定しない。					
--------------	--	--	--	--	--

参考図書

・【新版】組織行動のマネジメント 入門から実践へ	スティーブン P.ロビンズ・高木 晴夫	ダイヤモンド社	3080	9784478004595
・経営組織論	十川廣國	中央経済社	2640	9784502475405
・組織論 補訂版	桑田耕太郎・田尾雅夫	有斐閣	2340	9784641124127

その他

プリント資料適宜
キャンパスクロスより受講生自身でダウンロードすること。
<参考文献>
P.ドラッカー・上田 啓生(翻訳) 『マネジメント1』[エッセンシャル版]第49版 ダイアモンド社 2001
田尾雅夫編著 『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房 2010
稲葉 祐之・井上 達彦・高木 一・山下 勝 『キャリアで読める経営組織--個人の論理と組織の論理』 有斐閣 2010
鈴木 博志 『はじめての経営学』 経営組織論 東洋経済新報社 2018
高尾義明 『はじめての経営組織論』 有斐閣 2019
中野 勉・加藤 俊彦・関口 俊紀・山田 真茂留・若林 真樹 『グラフィック 経営組織論(グラフィック経営学ライブラリ 2)』新世社 2021

授業計画

講義については進捗状況に応じて変更される場合がある

- 1経営学と経営組織論
- 2組織の定義と成立条件
- 3組織均衡と組織目的
- 4経営組織論の発展と系譜 : 官僚制理論
- 5経営組織論の発展と系譜 : 科学的管理法
- 6経営組織論の発展と系譜 : 人間関係論
- 7経営組織論の発展と系譜 : 行動科学
- 組織のミクロ理論 : モチベーションの内容理論と過程理論
- 8組織のミクロ理論 : 行動科学的リーダーシップ
- 9近代組織論 : ハーワードの近代組織論(1)
- 10近代組織論 : ハーワードの近代組織論(2)
- 11 近代組織論 : サイモンの意思決定論的組織論
- 12組織のマクロ理論 : 組織構造(1)
- 13組織のマクロ理論 : 組織構造(2)
- 14組織のマクロ理論 : 組織構造(3)
- 15組織と戦略

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> W:ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> E:グループワーク
<input type="radio"/> O:プレゼンテーション	<input type="radio"/> C:実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> K:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

必要に応じて事例研究(ケース)を使用する

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

本講義の単位取得には、講義の前夜で、予習に2時間、復習に2時間、合わせて4時間をかける必要があります。
講義で使用するスライドや資料はキャンパスクロスにアップしてあるので、自分でダウンロードして、予習・復習に使用すること。必ず1週間前には講義スライドをポータルにアップします。
講義中にダウンロードの指示があったら、次回の講義に合わせて随時予習をすること。また、ダウンロードは定期試験終了時まで可能にしてあるので、復習や試験勉強にも使用すること。
課題提出を求めているが、講義内容に沿った内容の課題テーマが設定されているので、課題を作成することが復習の代わりになる。
日常的に、新聞、ビジネス雑誌、Netのニュースなどをチェックして、企業に関わるタイムリーな話題に接してほしい。また、参考文献は図書館に配置されているので、それらを活用してもらいたい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ・各業界における組織の問題を理解するための基礎知識を身に付け、これをもとに、企業マネジメントに関する問題探索、課題提案ができる能力を養う。
- ・企業経営の仕組みや組織行動について、経営理論に基づき、自ら考え、理解し、具体的な改善策や解決策の提案ができる組織のリーダーを目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

演習でのIT機器の積極的利用およびITツール持ち込み許可を前提として以下を目指す。

- ・学生のモチベーションを上げる。
- ICT教育で使用するITツールによって画像や動画を活用することで分かりやすい授業を行うことができ、学生の興味・関心を高め、学習に対するモチベーションが高まる。また教員からの一方通行の授業でなく、ITツールを使用した主体的・協同的な授業が出来ることも学生の学習に対するモチベーションを高める。
- ・学生も教員もストレスを感じず、効率的な学習ができる。
- 学生も教員も、テキストによる文字情報だけでは伝えづらいことを、画像や動画などで視覚や聴覚に訴えかける情報によって伝えることができるので、スムーズに効率的な学習を進めることができる。
- ・学生が授業に積極的に参加しやすくなる。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

不明な点は担当教員や教務部に必ず問い合わせること。
状況変化に合わせた対応に留意すること。
以下のオフィスアワーを利用して教員とコンタクトをとるように。
オフィスアワー : 研究棟 1階 111号研究室 月・水・木 12:10-12:50
問い合わせについては以下の公開された電子メールでも対応する。